

祖母からの宿題

－正しいと信ずることを自ら積極的に実践する態度－

- 1 学 年 第9学年〔後期〕
 2 主題名 正義・公正公平〔4－（3）〕
 3 ねらい
 祖母から戦災孤児の収容施設を造ろうと立ち上がった先生の話や戦争体験を聞いた「私」が、真剣に祖母からの宿題に向き合っていく姿を通して、正しいと信ずることは信念をもって実践し、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。
 4 資料名 「祖母からの宿題」
 5 展 開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 倉橋島の写真を見て、その魅力を知る。 ○ この写真を見て気が付いたことを発表しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ きれいだなあ。どこの海だろう。 ・ 行ってみたい。 ・ 泳ぎたくなる。 	○ 倉橋島のきれいな海等の自然を伝える写真を提示し、本時の学習への関心をもたせる。
展 開	2 資料「祖母からの宿題」を読んで話し合う。 ○ 涙を流しながら、戦争の話をはじめたおばあちゃんを見て、「私」はどのように思ったのでしょうか。 ○ 「私」が、祖母や父から受け取った大きなものは、何だったのでしょうか。 ◎ 「私」は、作文用紙にどんなことを書いたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ おばあちゃんに悪かったなあ。 ・ 簡単に考えていた。祖母にとっては、人に話したくない体験だったんだ。 ・ 私はむりやり、祖母に辛かった体験を話させようとしている。 ・ 正しいと信じることに向かって努力することは必ず実を結ぶこと。 ・ 先生の孤児達の施設を作りたいという強い思いが、今の祖母や父にも受け継がれていること。 ・ 祖母にとっては辛く、話したくない体験だったが、聞いてよかった。 ・ 祖母の話から、正しいと思うことを貫き通すことの大切さを学んだこと。 ・ 私も祖母や父のように、自分が正しいと思ったことは、信念をもって行動できる人になりたいということ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の愚かさに気付いたという言葉に注目させる。 ○ 意見が出にくい場合は、「大儀は天地を震わす」という言葉について考えさせる。 ○ ワークシートではなく、実際に作文用紙を準備しておく。その際に、書く時間と話し合いの時間を十分確保する。 ○ 祖母の伝えたかったことが、戦争や原爆の悲惨さ等に関する発言にならないように留意する。
終 末	3 教師の説話を聞き、「心のノート」に、自分の考えを記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正義を実現するためには傍観者でいてはだめだ。 	○ 「心のノート」P.103の世界人権宣言（抜粋）を読んだ後、P.102に自分の考えを記入させる。

6 授業の概要

(1) 主題について

敗戦後の倉橋の地において、旧海軍特殊潜航艇秘密基地跡地に、戦災孤児の収容施設を造ろうという計画があった。資金不足を補うために廃材を焚いて海水から塩を製造してそれを補い、施設の建設に努力した。しかし、その跡地に娯楽施設の建設を計画した進駐軍は、跡地からの24時間以内の撤退を命じた。GHQ（特に、第二次大戦後、連合軍が日本占領中に設置した総司令部）との交渉は難航し、この地への施設の建設は実現しなかった。しかし、その夢は似島学園という形で実現することとなる。倉橋町史に記載されたこの内容をもとにして、現実の社会が持っている矛盾や課題に気づき、理想を求め公正で公平な明るい社会の実現に積極的に努めようとする心情を育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 社会科との関連

本資料に描かれた社会的状況を生徒が理解しやすいように、社会科での「占領と日本の民主化」等の学習との関連を図りながら扱いたい。

イ 本資料を通して考えさせたいこと

先生や祖母の夢は倉橋島では実現することはなかったが、正義を信じ、あきらめないことで、似島学園という形で実現することになった。この資料では詳しく触れられていないが、先生だけでなく、原爆孤児の児童も力を合わせて一つの学校を造り上げたという事実を通して、理想を求め公正で公平な明るい社会の実現に積極的に努めようとする心情を育てたい。

ウ 資料の活用の留意点

本資料は倉橋町史の記述をもとに、それに脚色を加えながら作成したものである。脚色部分は、事実と異なる創作による内容も含まれており、その事を留意して資料の活用をしたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

倉橋島のきれいな海の写真を見せ、魅力を知らせた後、資料の中の「ここにかつて子供のためのユートピアをつくらうとした人がいました。」との言葉につなげたい。

イ 主題にせまるために

本資料は「正義、公正・公平」を主題としている。戦争の悲惨さ等に生徒の思考が傾かないよう、先生の行った行為や発言の意味も押さえながら、授業を展開したい。

ウ 終末の工夫

終末では、補助資料として、似島学園を扱ったものを用意するのもよい。特に教師と児童が力を合わせて造り上げていく場面を詳しく伝えることで余韻をもたせて終わることも考えられる。

(4) 参考資料

「倉橋町史」

執筆者より

本資料は、「倉橋町史」をもとに作成した。しかし、町史には、当時の様子の詳しい説明までないため、架空の人物である、おばあちゃんやお父さんを登場させ、脚色を加えることで主題にせまろうとした。

(倉橋西中学校 水谷 修之)